

折に触れ 四字熟語

NO. 45 『晴好雨奇』 せいこう うき

< 意味 > 晴天でも雨天でもすばらしい景色のこと。自然の眺めが晴天には美しく、一方、雨が降ったら降ったですばらしいこと。

< 出典 > 蘇軾「飲湖上初晴後雨」(詩)

飲湖上初晴後雨 (湖上に飲し、初め晴れ後雨ふる)
水光激灩晴方好 水光 激灩 晴方に好し
山色空濛雨亦奇 山色 空濛 雨も亦奇なり
欲把西湖比西子 西湖を把って西子に比せんとすれば
淡粧濃抹總相宜 淡粧 濃抹 總べて相宜し

通 釈 : 湖を照らす日の光がきらきら波に映じ、晴れた日の湖の景色は全くすばらしい
また、山のけはいが、ぼんやりかすんで見える雨の景色も、やはり珍しい趣がある
(このように晴れてよく、降ってもよい) 西湖の風景を、あの美人のほまれ高い西施にくらべてみるならば
西施が薄化粧した時も、濃い化粧をした時も、どちらもよく似合うように、西湖も晴雨ともによい景色である

語 釈 : 「激灩」は日光・月光が水面にきらめくさま。「空濛」はぼんやりくもる。かすんではっきりしないさま。「奇」は普通とは違ってすぐれている意。「西子」は春秋時代、越の絶世の美女。「西施」と普通は書く。

一 言 : 雨シリーズその1

梅雨の雨といっても、このところ九州方面で記録的な雨が降って大きな被害が出ているようです。あそこまで降ると雨の風情などとうたっている場合ではないですね。早く止んでくれるといいんですが。

参照文献 : 角川書店「中国名詩鑑賞辞典」 三省堂「四字熟語辞典」